



【発行】
富士宮市教育委員会
社会教育課
☎ 0544-22-1186

「絵本とわらべうたの会」2024年度⑥

日時 10月8日(火) 10:00~11:00
場所 西公民館 1階 集会室

就園前の子どもとお母さんを対象にわらべうたで楽しいひとときを過ごします。赤ちゃんもお母さんのうた声と一緒にゆっくり身体をゆすられて楽しめます。絵本の読み聞かせもあります。

必要な方は敷物やバスタオルをご用意ください。

市民読書サポーターのいる日程 10月

市立中央 図書館 (10~12時)	5日(土)	12日(土)
	19日(土)	26日(土)
西公民館	8日(火) 10:30~11:30	

子どもにとっての昔話

6月から始まった「子どもと楽しむ絵本講座」に参加しました。全6回のうちの昔話の回で、イギリスの昔話「かしこいモリー」と「三びきのこぶた」を取り上げて、感想や意見を話し合いましたが、自分の子どもさんの反応を話してくれた方がいました。その子どもさんは、「かしこいモリー」を図書館のおはなし室で初めて聞いた時から、モリーが賢く立ち回り、大男から走って逃げ、髪の毛一本橋を渡るところが好きで、本を何度も借りて読み、とうとうその本を買って読むほど気に入ったということでした。残酷な場面があっても、子どもは大人と違って、主人公のモリーと一緒にワクワクハラハラしながら冒険を楽しむのだということがよくわかりました。

また「三びきのこぶた」では、他の絵本で木の家がログハウスのような頑丈な家が描かれているのを見て、これではオオカミが吹き飛ばせない違和感を持っていたが、この絵本でハリエニシダの枝で家を作ったのだとわかって納得したと、子どもが話してくれたということでした。子どもがお話の主人公になって昔話を楽しむには、納得できる絵や文章になっていなければならないのだと改めて感じました。

講座では、実際に絵本を読んでもらって感想を伝えあうことで、一人で読んでいる時には気づかなかったことにたくさん気づいてとても面白かった、との感想も受講生から出ていました。

(市民読書サポーター 若林清美)



『三びきのこぶた』
福音館書店

おすすめの本の紹介



きつねものがたり

ヨセフ・ラダ さく／え
うちだりさこ やく
福音館書店

森番の家に飼われていたかしこい子ぎつねは、お話を読んでもらっているうちに人間語を覚え、自由を求めて森へ逃げ出す。ところがどうやって食べ物を手に入れるかが悩みの種。森番の留守に電話で肉屋をだまし、まんまとハムをせしめたまではよかったが……。

元気で決してへこたれないきつねが大活躍し、ついに森番に出世するまでを描く。素朴な知恵と笑いにあふれたチェコのお話。



しずく的首飾り

ジョン・エイキン 作
ヤン・ピアンコフスキー 絵
猪熊葉子 訳
岩波書店

お話が8編収められている短編集。表題の「しずく的首飾り」は、名付け親の北風が、毎年一粒ずつくれた不思議な雨粒の首飾りを首にかけていれば、ローラはどしゃぶりの雨でもぬれないという話。「空のかけらをいれてやいたパイ」は、おばあさんがパイを焼いていると空のかけらがパイの中に入ってしまい、パイはふわふわと空中に浮かんで外へでていってしまうという話。

どのお話にも、妖精や魔法使いや空飛ぶじゅうたんなどが登場し、空想物語のおもしろさがたっぷり味わえる。挿絵は美しく繊細なシルエットで描かれ、物語の雰囲気を楽しく伝えている。

裏面もご覧ください